

中国人日本語学習者の授受表現の習得状況に関する一考察 — 「コメントカード」から抽出した文に基づいて—

Research on Chinese Japanese Learners' Acquisition of Giving and Receiving Expressions: Based on the Sentences from "Comment Cards"

李 文博
Wenbo LI

鳴門教育大学大学院 グローバル教育コース
Global Education Course, Graduate School, Naruto University of Education

要旨

授受表現は日本語特有の表現形式の一つである。「恩恵」、「視点」、「ウチとソト」などに関わることなので、外国人日本語学習者にとって、習得は困難だと考えられる。これまでの研究では、アンケート調査と文法テストなどを通して、学習者の習得状況を分析するのが一般的である。しかし、質問紙を使った調査は、被験者に研究者の目的を提示する危険があると指摘されている。そのため、より客観的なデータを得るために、本稿は自由に書かれた「コメントカード」を分析対象とし、中国人日本語学習者の授受表現の習得状況を日本語母語話者と比較しながら、考察を行った。その結果、中国人日本語学習者の授受表現の「非用」¹が目立つとともに、「てくれる」の過剰使用も観察できた。また、「恩恵」に対する理解が不十分であることが分かった。これらの特徴は、中国人日本語学習者に授受表現を教える際の手掛かりになるのではないかと思われる。

キーワード：授受表現, コメントカード, 中国人日本語学習者

1. はじめに

日本語の授受表現について、これまで多数の先行研究がなされてきた。「ウチ、ソト」、「話し手の視点」、「三項対立動詞」、「恩恵」など、いわゆる日本語特有の表現と絡むことで、日本語学習者にとって、習得しにくい文法項目の1つとされる。

まず、例1のように、話し手の「ウチ」の人か、「ソト」の人か、すなわち話し手に近い関係者かどうかによって、「アゲル」と「クレル」は使い分けられる。

例1:

在第7課我们学过的「あげます」、不能用于说话人（我）以外的人给说话人（我）及说话人家属等东西时。这时要用「くれます」。
わたしは佐藤さんに花をあげました。

我送给佐藤花了。

佐藤さんはわたしにクリスマスカードをくれました。

佐藤送给我圣诞卡了。

佐藤さんは妹にお菓子をくれました。

佐藤给我妹妹点心了。

出典：『みんなの日本語 初級 I 第2版 翻訳・文法解説 中国語版』（スリーエーネットワーク, 2019, p.152）

そして、久野（1978）は授受動詞ヤルとクレルを視点の問題として捉え、以下のような視点制約があることを指摘している。

「『クレル』は、話し手の視点が、主語（与える人）よりも与格目的語（受け取る人）寄りの時にのみ用い

¹ 「非用」の定義は研究者によって違いがあるが、本稿の場合は「使うべきところに使わないこと」とする。

られる。『ヤル』は、話し手の視点が主語寄りか、中立の時にのみ用いられる」(p.141)。

さらに、日本語の授受表現は「アゲル」、「クレル」、「モラウ」という三項対立の動詞とされているが、英語では [give] と [receive] の二項対立である。そのため、学習者にとって、「アゲル」と「モラウ」は [give] と [receive] にそれぞれ対応することは理解できるけれども、「クレル」の存在は理解しがたいと思われる。

また、授受動詞は補助動詞（～テアゲル、～テクレル、～テモラウなど）として使われる場合、恩恵を表すと言われる。例えば、例2の文において、「感謝」を表す単語はないが、その文自体は「感謝の気持ち」を表している。そのため、授受表現は日本語特有の表現だといわれる。

例2：田中先生が私に文法を教えてくださいました。

Mr.Tanaka taught me the grammar.

上述したように、授受表現は日本語特有の表現の1つで、使い分けが難しい文法項目の1つだといえる。しかし、上手く使えなければ、日本人との交流に支障が生じると思われるので、しっかり習得させることが重要だと考えられる。

2. 先行研究

堀口(1984)は、中上級学習者であっても、下記のように、「文法的ではあるが日本語らしくない」という誤りが多いと指摘している。

例3：「友達は善光寺のバスを私に教えました。」

例4：「あなたにお礼を書いてあげます。」

王(2000)は中国語母語話者における授受表現の「非用」について調査し、中国語の干渉による「非用」が目立つと指摘している。また、荒巻(2003)は上述した2つの研究を踏まえて、「授受表現を使って文法的に正しい文を作成する能力があっても、日常生活の場面において、授受表現を使用すべきかどうかの判断を誤る学習者が多いのではないか。」という仮説を立て、質問紙調査を通して、学習者の授受文形成能力と場面判断能力にずれがあることを検証した。加えて、場面判断能力調査において、授受表現が使われる場面を1)のように、第3者が自分のためにある行為をしてきたことを聞き手に話すという場面、2)のように、目上である聞き手のために自分がある行為を申し出るという場面、3)のように、第3者のためにある行為をすることを聞き手に依頼するという場面という3つに分けて、それぞれの授受表現の使用状況を考察した。

1)：話し手A(留学生)が聞き手B(友人, 日本学生)に対し、ホームステイ先のお父さんCが「日光に連れて行ってくれた」ことを話す場面

2)：話し手A(留学生)が聞き手B(大学教授)に対し「引っ越しの手伝いをする」と申し出る場面

3)：話し手A(留学生)が聞き手B(会社の同僚)に対し、入院している同僚Cのために「お見舞いに行ってください」と頼む場面

その結果として、3つのタイプのうち、最も誤りが多かったのは、第3類型の「～てあげてください」であった。そして、使われている動詞や相手との上下・親疎関係によって学習者の場面判断の的確性が影響を受けていることが推察される。最後に、行為者が身内である場合の敬語の使用や、受益者が身内である場合の「くれる」と「あげる」の混同など、ウチとソトの概念に関する正しい判断ができない学習者が見られたことがあげられる。

そして、太田(2020)は例5のように、授受表現のみを使用するのではなく、既習の他の表現との組み合わせのなかで使用することが難しい、例6のように、「恩恵」や「感謝」の感じられない文脈では使用することが難しいという二つの仮説を立て、文法クイズに答える質問紙調査とフィードバックセッションを行った。その結果、授受表現はほかの表現と組み合わせると適切な運用は難しくなること及び「恩恵」的な出来事というとらえかたと離れた文脈では運用が難しいことが観察された。

例5²：*「電車が遅れて遅刻したことを先生に言わなければなりません」と駅員さんに言ったら、「遅延証明書」というカードを出してもらった。→(出してくれた。)

例6³：*ぜんぜん会わない(不満表明の場面)。→(会ってくれない。)

また、中国人日本語学習者の授受表現の習得について、上述した王(2000)のほか、孫(2011, 2014)、周(2019)などの考察がなされていた。孫(2011)は実際の使用場面に注目し、話し手と聞き手の上下・親疎関係を考慮し、会話完成テストで「テアゲル」の考察を行った。孫(2014)は孫(2011)の考察を受け、さらに、上述した荒巻(2003)の場面の分類方法を踏まえて、話し手が授受行為の関与の有無によって、その使用場面をさらに「話し手が直接聞き手(行為の与え手)に申し出や依頼などの発話行為を行う場面」と「話

² 頁数の制限上、筆者が太田(2020)の問題を参照したうえ、1文にまとめた。

³ 同2

し手が『話題の人物（行為の与え手）』に関わった恩恵的な行為を聞き手に伝える叙述の場面」に分け、後者の場面を中心に考察を行った。その研究方法は孫(2011)と同じく、設定されている場面における発話をもらう会話完成テストである。しかし、孫(2011, 2014)が指摘しているように、自由な発話をもらうテストでありながら、質問紙で提示することがあったので、学習者の不適切な発話を誘発していたのではないと思われる。

周(2019)は学習環境(JSLかJFLか)⁴と学習者の習得状況の関係を明らかにするために、文法テストを行い、二つの環境の学習者の得点の有意差検定をした。その結果はある程度の客観性があるといえるけれども、今後の課題として述べているように、質問紙から得られたデータは実際の会話場面と異なる可能性があると考えられる。そのため、自然な環境から得られるデータを扱う必要があると思われる。

また、データの収集について、迫田ほか(2020)は「アンケート調査で最も危険なのは、アンケート内容に研究者の考えや思い込みが反映されて、学習者自身の選択メカニズムやストラテジーが見えないことである。」と述べている。そのため、文法テストとアンケート調査から得られたデータの客観性は疑わしいと言える。

以上を踏まえて、本稿は本学で開設されている『日本語Ⅱ』、『日本文化研究』、『日本語教育法研究』という3つの授業から得られた「コメントカード」を分析対象とする。自由に書かれたコメントの内容から授受表現が使われた文を抽出し、データ化し、分析する。

3. 研究目的

- 1) 自由に産出された「コメントカード」から、中国人日本語学習者の授受表現の使用状況はどうか。
- 2) 具体的にはどのような表現の使用に問題があるのか、また、その原因は何か。

以上2つの研究課題を設定し、「コメントカード」から見られた中国人日本語学習者と日本語母語話者の産出状況を比較し、考察を行う。

4. 調査の概要

4.1. 調査協力者

- 1) 中国人日本語学習者(以下CJL⁵): 合計20名、

すべて本大学の大学院に在籍している。心理臨床コース所属は4名、グローバル教育コース所属は16名(内訳:日本語教育・日本文化分野所属は7名、他分野は9名)である。日本語能力には多少レベル差が見られるが、「授受表現」が既習項目であることは確認された。

- 2) 日本語母語話者(以下NS⁶): 合計11名、すべて本大学の大学院に在籍している(専門は区別していない)。

4.2. 「コメントカード」の紹介

「コメントカード」を書くことは本学日本語教育・日本文化分野の授業で毎回取り入れられている活動である。その目標は主に、授業に対する学生の意見と質問などを得ることで、授業の質の向上を図ることである。1つの授業が終わったあと、学生の授業に対する感想、質問など自由に書いてもらう。

4.3. 対象とした「コメントカード」の概要

対象は前期2021年4月から2021年7月までの間に、『日本語Ⅱ』、『日本文化研究』、『日本語教育法研究』という3つの授業から得られたコメントカードである。また、学生からもらった「コメントカード」の例は図1のようなものである。

<今日の授業についての質問・感想など>

名前()	日付(令和3年 5月 11日)
<p>授業の感想のフィードバックを丁寧にして下さることで、授業の振り返りができると同時に、異なる考え方や視点を共有できるので理解が深まります。</p> <p>また、みなさんが選んだ動画のリンク集はとてありがたいと思います。まだ全てを見ることはできていないのですが、今後日本文化を紹介するときには参考にさせていただきたいと思います。今日の授業でよさこい祭りについての動画を少し見ましたが、お隣の県のことであってもその歴史やどんなお祭りなのかあまりよく知らないなあと感じたので、せっかくなので受講者の方の地元(中国の方も含めて)の文化も紹介していただく機会があればなあと少し思いました。でもまずは、徳島の四大モチーフについてのみなさんの模擬授業をとて楽しみにしています。</p>	

図1. 学生が書いたコメントカード

⁴ JSL: Japanese as a Second Language、JFL: Japanese as a Foreign Language

⁵ CJL: Chinese Japanese Learners

⁶ NS: Native Speakers

5. 結果の考察

5.1. マクロ的な考察

まず、3つの授業のコメントカードから抽出された結果(表1)によれば、CJLは合計107例(授受本動詞と授受補助動詞が使われる文はすべて対象とする)の授受表現があり、NSは合計81例あった。ただし、CJLとNSの人数が違うので、平均値を算出したら、CJLは5.35例/人であり、NSは約7.36例/人である。そのため、NSより、CJLの授受表現の非用率は高いと言える。

そして、授受表現の使用形式について、太田(2020)の分類標準に参照し、CJLは合計22種類であり(1例は誤用だと判断される)、NSは28種類である(表2)。NSより、CJLに使われた授受表現のバリエーションはないことが分かった。さらに、CJLとNSが使った授受表現の使用形式の上位5位を比較すれば、「ていただく」の使用率は近いけれども、残りの4つは完全に異なってくる。

また、太田(2020)により、実際の授受表現の運用

表1. CJL 統計結果

CJL 統計結果		
種類	出現数 (率)	
てくれる	26(24.30%)	
てくれて、	18(16.82%)	
てくれた N	11(10.28%)	
てくださって、	9(8.41%)	
*ていただいて、	8(7.48%)	
ていただく	8	
てもらう、	3	
てもらう	3	
*ていただければ	3	
*てくれる N	2	
*てくださる	2	
ていただきたい	2	
*てもらいたい	2	
*いただいて、	2	
てもらった N	1	
てくださった N	1	
ていただき、	1	
*てくれながら	1	
*もらう	1	
*もらって、	1	
いただき、	1	
*いただければ	1	
合計	22	107

注：*の項目はNSに見られなかった表現である。

において、授受表現が主文の文末の補助動詞として単独の肯定または疑問の形で現れることは多くはないと述べている。つまり、実際の使用場面において、授受表現は常にほかの文法と併せて使われており、使用形式のバリエーションが多いと思われる。今回の調査を見てみれば(表3)、NSに使われる授受表現のうち、「モラウ系」の単独使用率は約9.68%、「クレル系」の単独使用率は約15.79%、「アゲル系」の単独使用率は100%である。一方、CJLの授受表現の単独使用率はそれぞれ約32.43%、37.14%である(「アゲル系」は出現しなかった)。そのため、NSより、CJLは単独的に授受表現を使う傾向が高いことが分かった。

表2. NS 統計結果

NS 統計結果		
種類	出現数 (率)	
ていただきたい	11(13.58%)	
てもらう、	6(7.40%)	
ていただく	5(6.17%)	
*てもらえる、	5(6.17%)	
ていただき、	4(4.93%)	
*ていただく N	4	
*てもらう N	4	
てくれる	3	
てくれて、	3	
てくれた N	3	
てくださって、	3	
てくださった N	3	
*ていただける N	3	
てもらった N	2	
*てあげる N	2	
*てくださる N	2	
*ていただいた N	2	
*ていただける	2	
*もらう、	2	
てもらう	1	
*ていただこう	1	
*ご~いただける、	1	
*いただける、	1	
*てもらえる	2	
*てもらえば、	1	
*ていただける、	2	
いただき、	2	
*てもらえた N	1	
合計	28	81

注：*の項目はCJLに見られなかった表現である。

表3. 類型別出現位置

類型別・出現位置						
出現位置	モラウ系の文中での位置		クレル系の文中での位置		アゲル系の文中での位置	
	CJL	NS	CJL	NS	CJL	NS
文末・単独	12(32.43%)	6(9.68%)	26(37.14%)	3(15.79%)	0	0
上記以外	25(67.57%)	56(91.32%)	44(62.86%)	16(84.21%)	0	2(100%)
計	37	62	70	19	0	2

以上の考察をまとめると、1) CJLはNSと比べて、授受表現の「非用」が目立つ、2) CJLに使われた授受表現のバリエーションが少ない、3) CJLは授受表現を単独に使う傾向があり、自然な使い方の習得は不十分だと推測できる。

5.2. ミクロ的な考察

まず、CJLとNSの使われた授受表現の上位5位を見ると、CJLはそれぞれ1)～てくれる(24.30%)、2)～てくれて(16.82%)、3)～てくれた+名詞(10.28%)、4)～てくださって(8.41%)、5)～ていただいて(7.48%)、～ていただく(7.48%)であり、NSはそれぞれ1)～ていただきたい(13.58%)、2)～てもら(7.40%)、3)～ていただく、～てもらえる(6.17%)、4)～ていただき、～ていただく+名詞、～てもら+名詞(4.93%)、5)～てくれる、～てくれて、～てくれた+名詞、くださって、～てくださった+名詞、～ていただけ+名詞(3.70%)である。

そのうち、「～ていただく」のみ、両群の使用率が近いので、CJLの「～ていただく」の習得はより定着しているのではないかとと思われる。ただし、NSに最も使われる「～ていただきたい」「～てもら、」などはCJLにあまり使われなかったことで、この2項目の習得は不十分だと推測できる。

そして、CJLの産出結果を見れば、「～てくれる」の過剰使用が目立つということが観察できた。その出現数は26例で全体の2割強を占めている。一方、NSの使用率は3.70%で、CJLの約8分の1のみである。さらに、文脈を参照して見ると、「～てくれる」が使われた文の文法的な誤りはないが、「日本語らしい文」ではない。その原因について、王(2000)は母語の影響、太田(2020)は日本語教材に出てきた例の不適切さだと述べている。

また、CJLの産出数の2位にあたる「～てくれて、」について、前後文脈を見れば、「～てくれて、ありがとうございます。」という文の出現率は高い。その一方、NSはこういう固定的な表現は見られなかった。このような特別な現象から考えると、CJLは日本語を学習していく過程で、ある文法表現との共起項目をひと

まりとして覚えていくのではないかと推測できる。授受表現だけではなく、筆者は、CJLが発表やスピーチをするとき、「発表させていただきます。」はよく使うが、「発表」という単語以外の「～させていただきます」はあまり使わないことに気づいた。加えて、筆者自身は日本語と英語を学習するとき、いくつかの共起する文法項目をひと固まりとして覚えたり、使ったりすることが多い。これはCJLの外国語習得の特徴ではないかという仮説が立てられると考える。

最後に、誤用と非用の例を見ていきたい。まず、唯一の誤用例は「～てくれながら、」である。原文は「今日の授業は教えてくれながらキーワードを板書して、わかりやすいと思います。」である。その原因について、2点推論できる。

1点目は、「～ながら」の用法を理解していないと考えられる。「～ながら」は同時進行の意味を表す場合、その前に「くれる」は来ない。2点目は「て形の接続」を十分に理解していないことである。この文の場合において、「板書しながら教える」ことは「わかりやすい」の原因となるので、「～て」ではなく、「～ので」を使ったほうが良いと思われる。そのため、自然だと思われる文は「今日の授業はキーワードを板書しながら教えてくれたので、わかりやすいと思います。」だと考えられる。

そして、非用の例は以下5つあった。1)今日の授業に先生が*予約(要約)の方法をよく説明しました。2)〇〇先生はよく説明して納得できました。3)今日の授業内容はとても難しかったが、〇〇先生がみんなに丁寧に教えたので、日本俳句の歴史についてわかりやすく、特に最後のbreaktimeが面白かったです。4)先生は私の投稿文の字数と形式の問題を修正しました。5)先生は一字一句に皆の投稿文の原稿の誤りや不備を訂正して、このクラスにそんなに多い人数に校正をさせるときと大変気が折れる。いずれも、目上の人から何らかの恩恵的と思われる行為を受けたので、感謝の気持ちを表す文である。このような場面において、授受表現を使うのが適切だと思われるが、ストレートにその行為を述べる表現が使われている。そのため、CJLの「恩恵」のとらえ方はNSと違うことがわかり、

「恩恵」を表す授受補助動詞の習得は不十分である。ただし、「恩恵」を感じたが、表現できないか、「恩恵」を全然感じなかったかについて、この産出した文だけでは考察できないと考える。そのため、フォローアップインタビューが必要だと思われる。

6. おわりに

本稿では、外国人日本語学習者にとって、習得しにくいとされる授受表現に着目し、本学の授業で取り扱われる「コメントカード」から得られたデータを分析対象とし、中国人日本語学習者の授受表現の習得状況について、日本語母語話者と比較しながら、考察した。なお、本稿の独自性は、従来のアンケート調査と文法テストなどからデータを収集することと違い、より自然だと思われる自由に書かれた「コメントカード」を分析対象としたことである。

考察の結果について、中国人日本語学習者は、1)日本語母語話者と比べて、授受表現の「非用」が目立つ2)授受表現のバリエーションが少ない3)授受表現を単独的に使用する傾向がある4)「～てくれる」の過剰使用が見られる5)「～てくれて、ありがとうございます。」という固定的な表現を使う傾向がある6)「恩恵」のとらえ方が日本語母語話者と違う。という6つの結論があげられる。

今後の課題について、まず、調査対象に対する意識調査が必要だと思われる。その理由は、産出の結果だけを見ると、学習者の「非用」と「誤用」および「過剰使用」の原因が特定できないからである。そして、太田(2020)が指摘しているように、教科書が学習者の習得に与える影響が大きいので、本稿が調査した中国人日本語学習者が使った日本語の教科書を分析する必要があると考えられる。なお、太田(2020)が分析した教科書は日本で多く使われるが、中国ではそれと違う教科書を使う教育機関が多いので、具体的な分析が必要だと思われる。最後に、今回の調査から得られた中国人日本語学習者の授受表現の習得の特徴を具体的にどのように教育現場で生かすかは、さらに分析し

た上で、検討した教授法を実践することが必要だと思われる。

参考文献

- 荒巻朋子(2003).「授受文形成能力と場面判断能力の関係－質問紙調査による授受表現の誤用分析から－」.『日本語教育』, Vol.117, pp.43-52.
- 王燕(2000).「授受表現における『非用』について」.『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』, pp.49-54.
- 太田陽子(2020).「授受表現の教育上の問題点：学習者は授受表現の運用のどこに困難を覚えるのか」.『一橋大学国際教育交流センター紀要』, Vol.2, pp.5-16.
- 久野暉(1978).「授与動詞(一), (二)」.『談話の文法(pp.140-152)』, 大修館書店.
- 追田久美子・石川慎一郎・李在鎬(2020).「I-JAS 誕生の経緯」.『日本語学習者コーパス I-JAS 入門 研究・教育にどう使うか(pp.2-13)』, くろしお出版
- 周キン茹(2019).「中国人日本語学習者の授受補助動詞の『非用』『過剰使用』に関する研究－学習環境が与える影響について」.『言語文化と日本語教育』, Vol.54, pp.29-32.
- スリーエーネットワーク(2019).『みんなの日本語初級 I 第2版 翻訳・文法解説 中国語版』, スリーエーネットワーク.
- 孫成志(2011).「中国人学習者による「～テアゲル」系授受表現の使用と習得について－日本語母語話者との比較を通して」.『日本語・日本文化研究』, Vol.21, pp.95-108.
- 孫成志(2014).「JFL 環境における中国人学習者の授受補助動詞の使用と習得－『話題の人物』が登場した場面に注目して－」.『日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性』, pp.257-268.
- 堀口純子(1984).「授受表現にかかわる誤りの分析」.『日本語教育』, No.52, pp.91-103.